

CCLサロンアンケート（2018 第1回・第2回）

第1回目：釧路赤十字病院

2018年11月27日開催（テーマ：DIG 災害図上訓練を通じた胆振東部地震を振り返って）

第2回目：釧路労災病院

2018年12月11日開催（テーマ：胆振東部地震によるブラックアウトを振り返って）

1. あなたの参加状況を教えてください。

・初めての参加   ・2回目の参加   ・3回目以上の参加

（第1回目）

1回目	2回目	3回目以上	NA	合計
17	5	22	0	44
39%	11%	50%	0%	100%

（第2回目）

1回目	2回目	3回目以上	NA	合計
13	8	16	0	37
35%	22%	43%	0%	100%

2. 現在従事している、あなたの職種をお書きください

（第1回目）

医師	歯科医師	薬剤師	看護師	理学療法士	作業療法士
1	0	5	14	0	0
2%	0%	11%	32%	0%	0%
言語聴覚士	社会福祉士	精神保健福祉士	介護福祉士	介護支援専門員	その他
0	3	1	5	10	8
0%	7%	2%	11%	23%	18%
NA	合計	※重複あり			
0	44				
0%	107%				

（第2回目）

医師	歯科医師	薬剤師	看護師	理学療法士	作業療法士
1	1	5	10	0	0
3%	3%	13%	26%	0%	0%
言語聴覚士	社会福祉士	精神保健福祉士	介護福祉士	介護支援専門員	その他
0	2	1	0	7	12
0%	5%	3%	0%	18%	31%
NA	合計	※重複あり			
0	39				
0%	100%				

3. サロンの雰囲気は、いかがでしたか？

（第1回目）

①とても良かった	② 良かった	③あまり良くなかった	④良くなかった	NA	合計
35	9	0	0	0	44

80%	20%	0%	0%	0%	100%
-----	-----	----	----	----	------

(第2回目)

①とても良かった	② 良かった	③あまり良くなかった	④良くなかった	NA	合計
27	10	0	0	0	37
73%	27%	0%	0%	0%	100%

4. 今回の震災で、多職種や施設内、病院内など連携しうまくいったこと、今後の課題など、お書きください

(第1回目)

- 施設内で食事の提供を上手くできた。利用者さんとの連絡が取れた。
- ホット吸引が必要な利用者を病院で快く引き受けてくれた。
- 直接他施設の方と震災時に連絡を図る事はありませんでしたが、本日のGWの中で情報共有できました。
- 施設内での物の固定、心配でした。
- 在宅酸素の方の受け入れ(入院)が良かった。携帯電話が使えない。
- ヘルパーと一緒に独居や高齢者のみ世帯の安否確認をした。
- 在宅酸素の患者さんのエンリッチャーが使えず、一時混乱となった。
- 施設内…エレベーターが止まり階段昇降し、食べ物の提供をした。
- 日頃連携を図らせてもらっている施設の方達からの入院依頼についてはスムーズに受け入れ出来た。
- 震災後の院内の振り返りで、更に課題を明らかにできたこと。今後は院内から地域レベルで連携を考えることが必要と思います。
- 周りの人とのつながり、協力。ゆずりあいの大切さ。
- 在宅酸素や吸引など医療が必要な場合の連携。
- 電話が通じない時、多職種とどのように連絡をとるか。
- 在宅酸素の患者さんに電話してご心配があればいつでも来院して下さい、とすぐ声掛けできたことが良かったと思います。
- 施設の周りの災害MAPの作成をしていきたい。
- 食糧の備蓄。
- 防災無線が聞きとれなかったのが課題。
- 病院薬剤部と連携し、全ての患者様にお薬をお渡しする事が出来たか、停電時連絡がとれなかったのが課題。
- 電話が使えなかったので施設と何往復もして連絡を取りました。
- 利用者安否確認。電源確保。緊急入院確保。
- 施設がオール電化なので、食事の用意の時、職員の家族がお弁当屋さんなので、作って持ってきてくれた。
- 福祉用具業者と震災時、自動ベット等が稼動しなくなった際を想定する必要があると感じた。
- 停電の時、ライトを用意しても、保管場所、使用方法が理解できない人が多くいた。電動ベット、エアマットの手動操作を確認ができた。

- 施設や在宅で起きていたことが少し分かりました。
- 今回の課題を把握し解決できるようにする事。
- HOT、吸引等をしている人の入院調整。
- 訪看への緊急TELへメールし、急患の受け入れを伝えたこと。当院で酸素利用している方の一覧なく、エア・ウォーターへの問い合わせが課題です。
- 電気がない事への備えが何もなく不安で過ごし、反省だらけでした。
- エレベーターが止まり入院患者さんの食事の配送ができず、職員で人海戦術で渡すことが出来た。

(第2回目)

- 電話がつながりにくく、地域の方たちとの連絡ができなくて大変でした。普段からネットワークづくりがあれば、よりスムーズになるかと思いました。
- 自家発電、携帯の充電、ガソリンの入手、情報の収集(ラジオ)、水・食料の確保
- 災害マニュアルの見直し、災害訓練の具体的な方法とか検討したほうがいい。
- どこの病院がどれだけのことを受け入れられるのか。ということを実隣の病院に伝えることが必要だと思った。
- 直接利用様と連絡がつかなかった(TEL がつながらず)。ヘルパーさんやデイサービススタッフが直接訪問し、安否確認した事をみんなで情報共有できた。
- 栄養課の食品の供給ができず薬品で補完しました。
- 情報の発信と収集の方法
- HOT患者さんの受け入れをしてもらった。
- 呼吸器疾患でHOT使用の利用者様の受け入れ等でスムーズに行きました。
- 施設により停電対策非常灯等の配備にバラツキがある。電動ベッドが一番弱い、手動で変える装備が必要。
- 病院が問い合わせの窓口となれば良いと思う。
- 情報伝達
- 院内の入院や外来の受け入れは連携しながらスムーズだった
- 災害時の情報共有(施設間)
- 電話が通じず連絡したくてもできない状況が続きました。
- 情報発信が課題と考える
- 病院の受け入れが可能でも情報が発信できないこと
- 多職種との連携は特に必要なかった。施設内では食事の提供がうまくできた。課題として電源確保の必要性を感じた。

5. 今回の震災で、自分たちができることは何だとおもいますか？

(第1回目)

- 水を溜める。手回しラジオの充電コードが役に立った。
- 利用者さんたちが少しでも安心できるようにすること(通常の生活ができるようにすること)。
- 不安の軽減。

- 1人1人の減災、職場の減災、地域の減災。
- 備えを日頃から整えておく。起こりうるリスクを想定する。
- ラジオの電池交換や周波数を合せたり、水を届ける等のちょっとした事の手伝いが必要と思いました。
- 声掛け、見廻り、巡回。
- 自宅で非常時の備え。非常時の為の情報(電話が使えない時)を準備しておく。
- 正しい情報の把握。
- 情報共有
- 普段からの準備、訓練、心がけ。
- 普段から近隣の人達と顔合わせし、共助出来る環境作り。
- 震災が来ても自分たちで生活出来る様考える事、実行できること。
- まずは、自助・共助の為の準備。
- 備えることの重要性。
- 日頃の備え。
- 安全を確保。
- あらかじめ対策を確認して備える。情報を共有する。
- 利用者の状況を知り、訪問する。
- 患者さんに利用者さんに安心できる場の提供。自分の身を守るための日頃の備え。
- 防災に対しての備えを充分にしていく。備蓄品を準備しておく。
- 独居の方を支える、安心させる。
- 日頃の物の準備(水、電池、少量等)。
- 減災。ビデオを見て家具やオフィスの固定。
- 医薬品の安定供給。
- 独居老人の方の家を回る事は出来ると思います。
- 災害時の備蓄。
- 冷静な対応。
- 震災が起きた時、どうしたらよいかイメージしておく。
- 減災。
- 日頃から震災を想定し、利用者、家族の動き、えきることを把握する日梅雨があると感じた。
- 正しい情報を得て行動する。ガソリン、食料、水など用意する。
- きちんと連携して住民を(命)を守る事。
- 事前に対策に備え、情報をまとめておく。
- 釧路での病院のあり方アピール。連携。
- 普段から、防災への意識を持つこととシュミレーション。
- まずは、自分の防災準備！非常食や防寒の準備を・・・
- 弱者への気遣い。

(第2回目)

- 患者の安全を守るための環境整備、精神的フォロー
- 主に利用者様になってしまいますが、困っている人の手助け(食料など)

- 診療機能の維持
- 水を溜める
- まだわかりません。
- ちょっとした事(水を届ける・ラジオのメモリーを合わせる等)が高齢者にとって必要だと思う。
- 正確な情報を早く収集すること(スマホ・ラジオ等)
- お薬手帳やつながり手帳など自分のことが分かるものの重要性を伝え、災害時に役立つことを伝えていくことが大切。
- 地域での連携、役割分担
- 災害時のマニュアルの改訂。個人の平時からの心構え。
- 知りえた情報を高齢者に使えるように横のつながりや交流を深めていきたいと思います。
- 限られた状況下でいかに医療を患者様に対応できるか
- 北海道歯科衛生士会では災害時ボランティアを行っていて今回も厚真町に数名口腔ケアのお手伝いに行っていました。
- 患者様に医療提供ができることを伝える
- 自分の身を守って地域のために働く事
- 健康を守るために何をするか？そのプロだと思いますのでそこを頑張る。
- 日頃から、担当利用者に災害時を想定し、連絡先等を伝えておく。
- 当施設は障がい者対象(主に精神)なので、少しでも通常に近い生活を提供し安心、安全を感じてもらえるように、居場所としても開所をすること。

6. 震災時に、あらかじめどのような情報があるといいとおもいますか？

(第1回)

- 充電器、発電機の場所、数、ソーラの家
- 困ったことが出来た時に、どこへ助けを求めたらいいかの情報
- 利用者に向けて各病院、診療予定についてラジオ等通してアナウンスされると良いと思います。
- 物の場所の把握。使える情報収集ツール。
- どこでどんな支援や援助を受けられるか。
- 非常電源やケータイの充電できる場所。給油できるガソリンスタンドの情報。
- 停電や断水した場合の復旧までの目安(何日くらいとか、どこまで復旧したなど)。
- 避難所の場所、ライフラインの状況、障害されている場合はその復旧状況、病院の診療体制。
- 震災の情報、大きさや被害。情報収集できるサイト。電力状況、SNSなど。
- ラジオやテレビ、病院の受け入れに関する情報。
- 災害の情報。
- 避難所、水や食料の集まる場所。
- スマホ、携帯からの情報(家族・仕事等)
- ライフラインの情報。
- 災害時の備蓄品の管理。
- ライフラインに関する正しい情報。
- どこに避難したらよいか。

- 普段から〇〇すると良い。マニュアル。市報に毎月掲載。ラジオが聞けなかった。
- 日用品、食料品の提供情報。市民向けに「こんなことでも避難所を利用して下さい。」のポスター掲示、広報などでも。
- 医療機能の情報をきちんと発行する事。
- 給油、充電できる場所など。
- ライフラインの回復情報。行政からの確認などの連絡があると安心できたと思う。
- 津波、火災、停電情報など

(第2回目)

- 停電後1日のめど、避難場所
- 物資や復旧状態の案内があつていいかと思った。
- どの病院で何をしているか(受け入れているか)
- 電力が復旧するまで病院として対応可能な事をリストUPしておく。
- 困った時の連絡先。透析をどうするか。
- 各病院がどこまで災害時に対応できるのか検査、入院など。
- HOT や透析の患者さんが、イザという時に困らない情報を常に提示する。
- 高層マンション AP 等揚水タンクのある建築物の水と一般家庭の水は停電による差がハッキリしている。
- Life Line 情報→電気・水道・食料など
- 情報の窓口
- 病院での受け入れ情報が早くにされると良いかと思いました。(受け入れ透析など)
- 受け入れ施設の状況
- 充電ができる施設や開いているスーパー、開いている個人病院などの情報があると良いと思いました。
- どの医療機関でどういった医療ができるか発信する。
- 生活の全般的な情報
- 情報の収集場所、それぞれの医療機関のキャパ等
- 災害時に各医療機関がどのようなことをできるか、情報発信をしてほしい。
- ライフライン情報・物資の提供について・交通、道路状況

7. 今後のサロンで、「こんなことをしてほしい！」などリクエストがあれば是非、教えて下さい

(第1回目)

- 災害のことは常に会話し合う事が必要。
- 障害福祉サービスなど、福祉系の内容。
- 各職種に望む事(薬剤師に望む事)を教えてください。
- 災害ブック。
- 介護保険を利用している在宅利用者が入院した際のCMとMSWの連携を今一、フロー化してほしい。
- 話し方上手になるための、スピーチ上手サロンなど。
- 周辺症状の強い方の入れる施設ってあるの？

(第2回目)

- 訪問診療、介護のリソースマップを作ってください。
- やっぱり普段から『顔が見える情報共有』を知っていると、地域に役立つと思えたのでとても有意義でした。
- 楽しかったです。ありがとうございました！！
- 入院時、退院時の医療機関と介護支援専門員及び介護チーム間の入退院時の支援、調整をケースをあげた上で学びたい。